



令和5年12月27日
第十管区海上保安本部

九州初公開！最新鋭の測量船を鹿児島で見学しよう ～測量船「平洋」を鹿児島港北ふ頭で公開～

第十管区海上保安本部は、海上保安庁が担う海洋調査の重要性を市民の皆様にご覧いただくため、我が国の海洋権益の確保に必要な海底地形や地質の調査を東シナ海等で行っている海上保安庁最新鋭の測量船「平洋」（総トン数 4,000 トン）を鹿児島港本港北ふ頭において九州で初めて一般公開します。

1. 日 時：

令和6年1月28日（日）

午前10時～午前12時（受付終了：午前11時30分）

午後1時～午後3時（受付終了：午後2時30分）

2. 場 所：

鹿児島港本港北ふ頭1号岸壁（下図参照）

※専用の駐車場を用意しておりませんので、公共交通機関等をご利用ください。

3. その他：

当日、天候等の理由により中止する場合は、下記 Web サイトでお知らせします。

<https://www1.kaiho.mlit.go.jp/KAN10/>



測量船「平洋」



番号：HL11

長さ：103メートル

総トン数：4,000トン

就役年月：令和2年（2020年）1月29日

船長：犬藤 学（いぬふじ まなぶ）



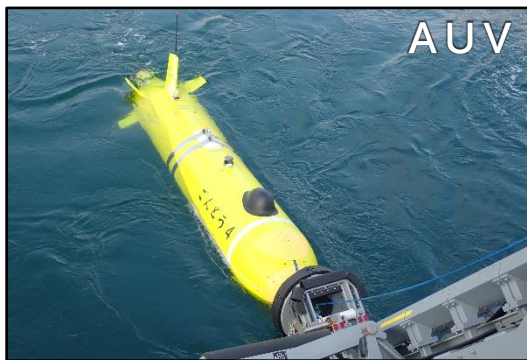
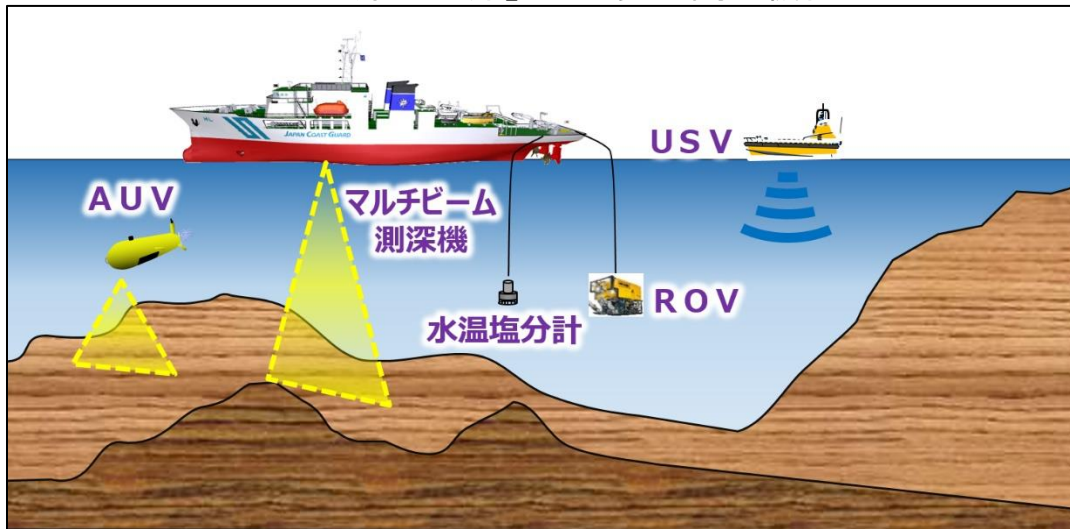
4. 参 考

海上保安庁の業務の一つに水深等の情報を記した海の地図「海図」の作製や海流・潮流、水温等の海洋情報の提供があります。海図や海洋情報は、船舶の安全な航海を支えるほか漁業などの多くの分野の経済活動に欠かせない重要な役割を果たしています。

海上保安庁は、海図の作製や海洋情報収集のため測量船や航空機等で海底地形や地質の調査等を行っており、調査した成果は我が国の海洋権益確保や防災情報にも役立てています。

測量船「平洋」は、令和2年（2020年）1月に就役した海上保安庁最大かつ最新鋭の測量船で、現在は日本海、東シナ海等の海底地形や地質の調査を行っています。

測量船「平洋」の主要な調査機器



マルチビーム測深機：海底に向け広角に音波を発信し、音波の往復時間と水中の音の速度から水深を計測する機器です。船の航跡に沿って水深の3倍以上の幅で最大11,000mの深さの海底地形を明らかにすることができます。

A U V：自律型潜水調査機器 (Autonomous Underwater Vehicle) といい、プログラムした潜航ルートを自律的に調査することができます。海底付近に接近できるためより詳細に海底地形を把握することができます。

U S V：無人高機能観測装置 (Unmanned Surface Vehicle) といい無線通信またはプログラミングによる自動航行が可能な観測装置です。噴火活動中の海域火山等の危険な海域でも精密な海底地形を調査することができます。

R O V：遠隔操作水中機器 (Remotely Operated Vehicle) といい、船上からの遠隔操作で海底の撮影を行う機器です。

水 温 塩 分 計：海中に投入し、塩分、水温を観測する装置です。